

「環境問題を考える会」2025年度 (第28回) 総会&記念講演を開催!

2025年7月19日(土)下野石橋公民館・会議室5において、環境問題を考える会の第28回総会および記念講演を開催しました。総会では当会の中里代表による開会の挨拶の後、来賓として下野市の坂村市長から祝辞の挨拶をいただきました。そして前年度の活動報告と会計報告がされ、次年度の予算、世話人会役員および活動方針が提案されて、いずれも満場一致で承認されました。

続いて行われた記念講演「資源としての地下水を考える」では、立正大学環境システム学科の安原正也先生により、地下水とは何か、その特徴、活用と保全、表流水との違い、関東地区の地下水脈分布等、地下水全般にわかりやすく解説していただきました。折しも下野市では一部の地域で水道水のPFAS汚染問題が発生しているため、その対応についてもアドバイスをいただきました。講演後の質疑応答では、会場の参加者から多くの質問や意見が出され、安原先生にはそれぞれに適切かつ丁寧に回答していただきました。講演内容の詳細は次頁を参照下さい。以下、総会と記念講演の状況を写真で紹介いたします。



総会開会の挨拶をする中里代表



来賓として祝辞の挨拶をされる下野市の坂村市長



会場を埋め尽くした参加者の皆さん



スライドを使って講演される講師の安原先生

記念講演：資源としての地下水を考える

講師：安原正也さん（立正大学 地球環境科学部 環境システム学科教授）

◎以下は講演内容の要点です。希望する方には講演資料を提供しますので事務局（P. 4）まで連絡下さい。

地下水とは何か、地下水の形態と特徴

地下水とは地層の間隙を飽和し、水循環に関与する可動性の水のことで、経済的に重要な大量の水を貯留し、かつ揚水される能力をもつ地層（砂礫層）を滞水層と言います。粘土層の上にある不圧滞水層から取水するのが浅井戸、粘土層の下にある被圧帯水層から取水するのが深井戸です。地下水は自河川水の流速と比べれば遙かにゆっくりです。

地下水の利用と保全、表流水との違い

日本における地下水の利用状況としては、農業、工業、生活用水の合計で11%であり、残りは地表水になります。地表水に対する地下水の長所として、水温・水位が安定、水質が良い、水利権がない、自己水源が得られる、災害に強い等があり、最近は災害時の緊急水源や環境用水等、地下水の新たな用途も注目されています。短所としては、過剰利用による地盤沈下、汚染が発生すると修復が難しい等があります。

地下水の課題、新たな地下水問題

地下水の課題として、水位低下と地盤沈下は特に高度経済成長期に全国で問題化しましたが、農業用水や工業用水の採取規制で対処しました。東京区部で発生した著しい水位低下は原因の天然ガス採取を禁止しました。これらの規制で水位は回復しましたが、地盤は元に戻っていません（地盤沈下は不可逆）。

地下水汚染としては、特に硝酸イオンが問題になります。例えば関東甲信越での濃度分布では、畑作地帯＋畜産が盛んな地域で顕著な硝酸汚染がある一方、水田地帯での汚染は低くなっています。重金属の汚染例としては豊洲新市場の土壌・地下水汚染があります。最近は老朽化した下水管からの漏水が地下水の新たな汚染源になっています。例えば、石神井川流域の浅層地下水が硝酸イオンや塩化物イオンで汚染されており、東京品川区では下水道施設が古い地区で下水漏水が多いことが確認されました。今後、大都市以外でも地下水汚染の新たな驚異となる恐れがあります。

東京区部で地下水位が急激に回復した結果、新たな問題も発生しました。上野駅や東京駅では建設時に低かった地下水位が上昇して大きな浮力が加わっています。上野駅は下部に鉄板の重りを入れ、東京駅は地下にアンカーを打ち込んで浮き上がりを抑えている状態です。東京の地下鉄は地下水位の上昇でトンネルの多くが地下水面下にあり、破損箇所があれば周辺の地下水がトンネル内に侵入するので、ポンプで24時間排水しなければならない状況です。これらは地下水による新たな都市型水害（災害）ですが、対策として地下水を汲み上げれば地盤沈下の問題が再発するので、どうバランスをとるかも課題です。

関東平野と栃木県南部の地下水

関東平野は中央部に地下水脈が集まり、綾瀬川断層と久喜断層の間に元荒川構造体という窪みがあります。2000年頃の関東平野の深度別水頭分布を見ると、栃木県の地下水は南に向かって流れていますが、分布が乱れている地区（野木～加須）は農業用水の取り過ぎで著しい地盤沈下が起きたことを示しています。関東平野中央部の南北地質断面図を見ると、帯水層と粘土層が交互に重なり、栃木県からの地下水は茨城県を通過して関東平野の中央部を流れており、その水質も良好です。この地下水の年齢については、炭素年代評価で8,000年～25,000年まで遡ります。

下野市の水道水源と地下水の性状

栃木県の地形区分によると、下野市は宝木台地の上にあります。その東西断面図を見ると、地下水層はA層、B層、C層と3段で構成され、いずれも南の方向に流動しているのが分かります。下野市の水道水は地下水100%で33本の井戸（深さ60m～200m）から取水しており、石橋地区の水源井戸はA層の滞水層に該当します。下野市の地下水は全て水質基準を満たしており、よい水質と言えます。ただし市街地でも硝酸性窒素が基準値に近い箇所があるので注意が必要です。農薬の影響以外に下水の混入が気になるところです。

地下水PFAS汚染の現状と対策

下野市の地下水のPFAS汚染について「下野市の水道水を考える市民ネットワーク」提供のデータを基に解説します。石橋第2配水区の浄水PFASグラフに異常な変動がありますが、検査会社変更の影響等、経験的にも検証した方がよいと思います。また、他地区のPFASはどうなったかも気になります。これについては実流速を計算してみた結果、A層0.4km/年、B層0.05km/年、C層65km/年ですが、水理定数の設定で大きく変わるので実測値が欲しいところです。

汚染源の特定をどうするかはトリクロロエチレンの成功例が参考になります。流動方向を考慮して汚染地域周辺（陸自隊駐屯地を含む）の地下水PFAS濃度を随所で測定すれば汚染源を特定できると思います。

水源として地下水は地表水より優れており、水道水が地下水100%というのは素晴らしいことです。今回不運にもPFAS汚染が発生しましたが「災い転じて福となす」この機会に行政と市民が一丸となって地下水を守って行くことを期待します。



戦争こそは最大の環境破壊！

「小金井空襲慰霊祭」に参加！

戦争は最大の環境破壊であり、環境問題として再び戦争を起こさない取り組みが必要です。それには悲惨な戦争体験を語り継いで行かねばなりません。1945年7月28日、既に米軍が占領した硫黄島より飛来したP51戦闘機が宇都宮から東北線上り列車を追尾し、小金井駅周辺で機銃掃射を行いました。その結果、戦没者の慰霊を迎えるため駅に集まっていた民衆と列車の乗客が犠牲になり、31名の死者と約80名の負傷者を出す惨事になりました。

この悲惨な地域戦災を語り継ぐため、市民ボランティアによる慰霊祭が昨年も以下の通り開催されました。当日は唯一の生き証人・梁昌子さんや犠牲者の遺族の方々、坂村市長も参列され、当会からも多くの有志が参加しました。

- 日時 2025年7月27日（日） 9時半～12時
- 場所 JR小金井駅西口 平和の礎前（右上の写真参照）
- 主催 小金井空襲慰霊祭実行委員会（会長：星野平吉氏）
- 備考 小金井空襲の本の著者・故鈴木敏夫さんを偲ぶ会も実施



「米問題と農業を考える」集会に参加！

米の供給不足による米価の高騰問題を背景に、11月8日（土）宇都宮市内で「米問題を中心に農業のこれからを考える」集会が開催され、当会からも有志が参加しました。以下、概要を紹介します。

- 日時 2025年11月8日（土） 13:30～16:00
- 会場 宇都宮市環境学習センター 4階フロア
- 内容
 - ・安田節子さんの講演（食政策センター・ビジョン21代表、「お米が消える日」の著者）
 - ・国母克行さん（民間稲作研究所理事）との対談
 - ・質疑応答、意見交換会

安田さんは講演の中で「日本の水田を守り抜き、有機自給国家の確立が必要」と訴えました。日本の食料自給率は38%しかありません。食の安全や環境保全に寄与する有機農業を広めるためにも、米は市場原理に任せず欧米のように農家の所得保証が必要ではないでしょうか。



プラ削減オンラインセミナーに参加！

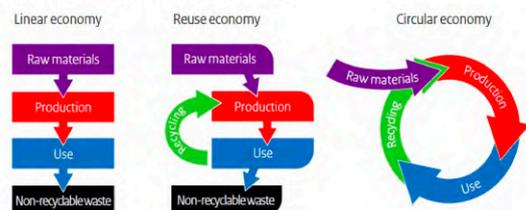
とうかいも参加している全国組織「容器包装の3Rを進める全国ネットワーク」では、廃プラスチックによる環境汚染の問題と取り組みを啓発するため、プラ削減オンラインセミナーを定期的で開催しており、当会からも有志が毎回参加しています。直近のセミナーは2025年11月11日に下記の内容で開催されました。

- 日時 2025年11月11日（日） 19:30～21:00
- 演題 「プラスチック汚染に立ち向かう脱プラスチック、そしてサーキュラーエコノミーへ」
- 講師 原田禎夫さん（同志社大学経済学部・準教授）
- 主催 容器包装の3Rを進める全国ネットワーク
- 備考 参加費無料、先着100名まで

廃プラが微細化したマイクロプラスチックは今や海洋汚染にとどまらず、大気中や水資源にも拡散し、更に微細化したナノプラスチックが人間の血管や脳にまで侵入している事実が報告されています。私たちは本気で脱プラに取り組む必要があります。なお、今後のセミナー情報は公式Xで案内しますので、是非ご参加下さい。

Circular Economy

再生し続ける経済環境であり、製品・部品・資源を最大限に活用し、それらの価値を目減りさせることなく再生・再利用し続けること。



「原発立地はこうして進む」自主上映会開催

恒例の脱原発パレードのプレ企画として、2025年も県内各地でプレ企画の自主上映会が計画され、その先頭を切って下野市では9月27日（土）に石橋公民館にて当会が主催で開催しました。当日は多数の参加者で上映会も講演も大変好評でした。以下、概要を紹介します。

日時 2025年9月27日（日）13:30～16:30

会場 下野市石橋公民館 会議室5

上映会 テレビドキュメンタリー

「原発立地はこうして進む～奥能登土地攻防戦」

講演会 同上および能登半島震災と原発、台湾の脱原発

講師 七沢潔さん（元NHKディレクター、中央大学客員教授）

主催 環境問題を考える会

後援 さようなら原発！栃木アクション（代表挨拶:大木弁護士）

参加者 下野市民を中心に61名（会員19名、非会員42名）



七沢さんのドキュメンタリー上映と講演は、かつて奥能登における珠洲原発の建設計画を阻止した住民運動取材したもので、能登半島震災による原発の大惨事をも未然に防いだ住民の力に、参加者から改めて感嘆と賞賛の声が上がりました。また、現地で倒壊した寺院を復興するための七沢さんの募金呼びかけにも多くの協力が集まりました。

「しもぶらフェスタ2025」に展示参加！

2025年10月19日（日）市民活動センターまつり「しもぶらフェスタ2025」が開催され、同センターに利用登録している31の団体および個人が参加出展しました。環境を考える会もこれまで通り参加し、屋内会場にて各種展示を行いました。

当日は天候にも恵まれ、開始早々から会場に多くの市民が来場、当会の展示コーナーにも多数の来場者がありました。特に今回は4月から導入された指定ごみ袋制への市民の関心もあり、恒例のごみ分別クイズは例年以上に盛況で、指定ごみ袋の効果検証も含め多くの市民に分別の徹底や減量化の必要性を啓発することができました。また水資源環境の展示コーナーでは、地下水100%の水道水を守るため、一部地域で問題となっているPFAS汚染対策の重要性を訴えました。

以下、概要を紹介します。

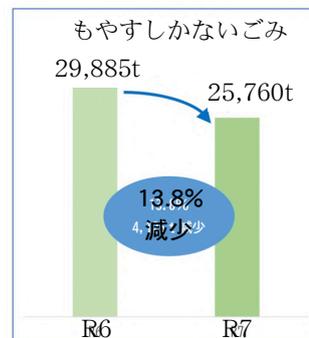
日時 2025年10月19日（日）10時～14時

会場 下野市市民活動センターしもぶら>コミセン

主催 しもぶらフェスタ実行委員会

環境問題を考える会の出展内容

- ・パネル展示（団体紹介、活動事例紹介）
- ・参考資料展示（ごみ問題、水道水問題、原発問題、他）
- ・ごみ分別クイズ



小山広域で4～9月のもやしにくいごみ排出量は前年同期と比べ13.8%減少！指定ごみ袋制（非有料化）と分別名称変更で燃やすごみを顕著に減らしたのは全国的にも前例がなく画期的と言える。

会員募集中！「環境問題を考える会」では広く会員を募集しています。

地域の環境を大切にしたいと思う皆さん、是非ご参加下さい。

- 年会費：1,000円
- 払込先：郵便口座番号 00160-1-139315
- 問い合わせ先（事務局）

磯辺☎0285-44-6621/平戸☎0285-44-5280/益子☎0285-44-6891

E-mail : kankyomk@ja2.so-net.ne.jp

Homepage : <https://kankyomk.wordpress.com>



公式HP



公式X